

ラジオドキュメント講評

県総文「ラジオドキュメント部門」の講評です。まず、コロナ禍で活動できる期間も短い中で、作品を仕上げ提出できたことを誇ってください。その上で、より良い作品にするため、審査員の先生方から出た以下の意見を今後の制作に活かしてもらえればと思います。

取材について

- ・取材の量が、そのまま作品の質につながっている。
 - ドキュメント作品は、ナレーションではなく取材の中身（取材対象の声）で進行していくべき。
- ・なぜその人にインタビューしたのか、その理由を聞いている人が納得できるようにする。

話題、テーマについて

- ・テーマ（一番伝えたいこと）が伝わる作品を。
 - テーマに一貫性をもたせる。あれもこれもだと、主題がぶれて伝わりづらくなる。
 - たとえば、「コロナだから大変」という話が多かったが、学校生活全体をテーマとして扱うよりは、一つの行事に絞って話を展開した方が良いのでは？
 - 最後に何を言いたいのか伝わらない作品は勿体無い。
- ・ドキュメントである以上、テーマにはメッセージ性（世間に伝えたい何か）を持たせたい。
- ・内輪の話題で終わらない。一般化した方が良い。

構成について

- ・インタビューの順番の意図が、聞いている人に伝わるように構成を工夫する。
- ・対比をうまく利用すると良い。（「コロナ前と後を比較する」など）

タイトルについて

- ・タイトルと内容の関連性をもたせる。
 - そのタイトルにした意味を作品中で回収できるよよい。

音について

- ・ラジオ作品であるため、SE や BGM などの音の使い方を工夫すると聞きやすくなる。

以上です。今後の放送活動も頑張ってください。